

日吉台地下壕保存の会

会 報

第52号

発行 日吉台地下壕保存の会
編集 事務局(年会費)一口千円で、一口以上
郵便振込口座番号00250-2-74921
(加入者名)日吉台地下壕保存の会

会計のお問い合わせ： 白鶴 邦子 港北区下田町1-4-14 045-563-3760

その他のお問い合わせ： 喜田美登里 港北区下田町2-1-33 045-562-0443

本号六〇七ページの「日吉台地下壕当時の関係者の思い出話」に軍令部第三部のことがでてきますが、これに掲載する写真をさがして、「連合艦隊作戦室から見た太平洋戦争」中島親孝著（光人社刊）をみておきますと、軍令部第三部のことが記述されておりました。参考になるかと思い、一部掲載させていただきます。

日本海軍における情報活動の中樞機関は、軍令部第三部であった。私は、ここで勤務したことがないから、井上成美大将（海兵三十九期）の言を借りると、

『軍令部第三部は情報主務となっていたが、世界情勢の結論を出すだけの人事配置をやっておらず、殊に中、少佐の対何国主務と申しても、単にその国のアタツシエから送ってよす新聞雑誌、議会の速記抜粋等のスクラップブックのはり方をやる下級事務員にすぎず。これ等の者の調査を基礎としながら情勢判断をなす部長、課長等に有能な人物を配置しておらず、一二年で海上に出たり、他の配置にいたり、人事上の欠陥多いにあり』（井上成美伝「太平洋戦争への道」読後所見より）

このスクラップブックにはりつけられた断片的情報を総合して、毎年の「列国国情梗概」という桃色表紙の本（秘書書を示す）にまとめ、各艦隊部隊にまで配布されていた。状況判断の基礎資料として価値あるものであったが、日常の勤務、訓練に追われている艦隊では、漠然として利用する気にならなかった。

一方、中央にあつて、作戦計画をはじめ艦船兵器の建造整備、教育訓練の計画に当たるものは、雑務に追われている関係もあり、基礎資料の研究をおろそかにして、各自の経験や直感に頼る傾向があつた。とくに工業力、労働力などに関しては数字は知っていても、その効果を深く考えないものが多かった。

このため、せっかくの基礎資料が充分に活用されない恨みがあつた。これが軍令部第三部に適当な配員が行なわれない原因となつていたと思われる。軍令部第三部では、使用者側の要求するものを作るように努力すべきであつたが、それには人員が不足であるという因果関係が認められる。

目次	ページ	本の紹介	5
軍令部第三部のこと	1	連載日吉台地下壕	
ピースロード構想		当時の関係者の思い出話	30 6~7
歩いて知ろう日吉の歴史	2~3	運営委員会報告	8
21世紀に残したい		見学会のお知らせ	8
わが街自慢 大聖院の森	4	会費納入のお願い	8

ピースロード構想 歩いて知ろう

日吉の歴史

運営委員 大西 章

秋も深まった暖かな土曜の午後、日吉駅に23名が集まり地元歴史を見つめる見学会を行いました。自らが生活している地域には関心が深く多数の方が参加されました。

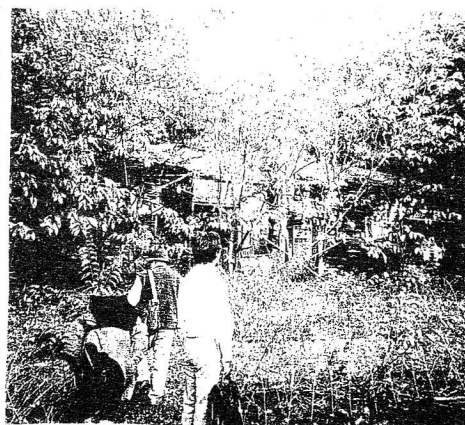
日吉駅から線路沿い、綱島方面に坂道を下りガードをくぐり抜け諏訪神社に着きました。そこで簡単な自己紹介の後、案内役の新井先生（日吉台地下壕保存の会）から「今日は日吉の町の歴史を皆さんと一緒に歩きながら学びましょう」の声で見学会が始まりました。この境内は小高い丘にあり、うしろに竹林や松林がひかえ、前方は遠くに東横線の走る音が聞こえる見晴らし

の良い場所でした。資料の古地図を見ながら、前に広がる田圃は上田（じょうでん）といって昔からの良質な田圃で増上寺にお米を納めていたとか、その周りの丘のふもとには縄文式土器が出土した遺跡が数多くあるなど歴史的な話を聞くと、昔から人が住んでいた豊かな土地であつたことが忍ばれました。

次の大聖院にはきれいに手入れがされているお庭があり、ここに根をはる3本の老木は片側が焼け爛れて黒ずんでいました。

焼夷弾が直撃したことによるもので、空襲の凄まじさと同時に樹木の生命力の強さを感じました。

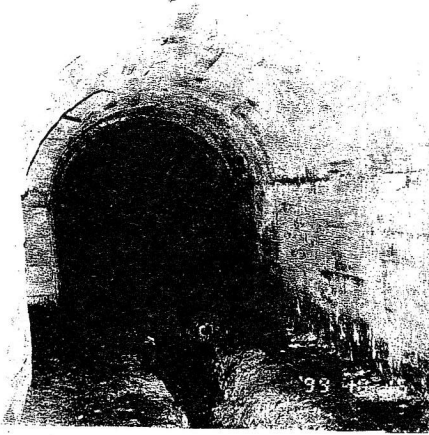
大聖院の裏道を進むとそこは日吉の町の騒音とは離れ、鳥の声のみが耳に残る静かなところでやがて海軍艦政本部地下壕設営隊厨房跡に出ました。今日これから入る地下壕の反対側の出入口にあたります。目の前にあるうっそうと繁つた山の下に地下壕があるわけです。細い道を登り急に広い道に出ると慶應



海軍艦政本部地下壕設営隊厨房跡

義塾普通部の裏にで、少し歩くと見晴らしの良い場所に出ます。普通部のある場所は尾根沿いの高台にある一等地であることが良くわかります。急な階段を手摺につかまりながら降ります。地下壕の上を越えてきたわけですから、用意した懐中電灯を持ちながらいよいよ地下壕へ入ってきます。入口付近は瓦礫が捨てられており、その奥へと進みます。

この地下壕は東西方向に10本掘られ、南北方向はアミ



ダくじのように結ばれています。海軍省艦政本部が入る予定でしたが完成したのが1945年8月14日でしたので、実際には使用されませんでした。地下壕内は天井の高さが3mぐらいのアーチ状になっています。地下壕の作り方はまず岩盤に横穴を掘り、その内側に材木で覆いを作り、その材木と岩盤の隙間从上から掘った縦穴を通してコンクリートを流し込む工法がとられました。天井部分はコンクリート、壁面は大谷石で作られたところもありました。その大谷石は田園調布あたりの家の塀を取壊して調達してきたそうです。天井のコンクリートの厚さも数cmしかなく、連合艦隊司令部の地下壕の厚さと比べると大変薄く、物資が無くなってきたことがよくわかります。床の中央には排水溝として幅約40cm、深さ30cmぐらいの溝が掘られ、天井には電灯線を張巡らした跡がありました。もちろん銅線などは戦後すべて持っていわれています。天井からポタポタと滴が落ちてくる中を進んでいきます。途中からは土砂が流れ込んでいて足元が悪く滑りやすく引き返すことになりました。ひんやりとした湿気の多い地下壕の中を懐中電灯を頼りに歩くことは独特の雰囲気があり、その中で当時のことを考えてみると歴史

的な重みを感じざるを得ません。一回りして近所の方にお話を伺ってみますと、当時は朝鮮人労働者を使つて短時間で掘つたそうです。この地下壕は実際には使用されてはいませんが終戦直前の状況をよくあらわしており、歴史的価値は高いと思います。

2時間の短い時間でしたが、縄文文化から明治・大正・昭和の歴史を生きた人たちのお墓や碑を見学し、また地下壕見学は始めてもぐった人たちが多くよい経験になりました。我々の地元には気づかない歴史が埋もれていることも多く、それを掘り起こしながらこれから未来を考えていくことの重要性を感じました。特に戦後50年が過ぎ、戦争を体験されている方が少なくなり、戦争を知らない人たちが戦争を全く知らない子供たちに語り続けていかなければならな

い中、黙として存在する地下壕の重みを十分に再確認したと同時に、保存運動を続けていかなければならないことを感じました。またこの地下壕だけではなく、蟹ヶ谷や慶應義塾大学構内の地下壕、それに神社・仏閣城址、伝説の地など多摩丘陵にはまだまだいろいろと掘り起こさなければならぬ大切な史跡が数多く存在すると考えられます。まずは自分が住んでいるところの歴史を掘り起こしましょう。

見学ルート

日吉駅↓①諏訪神社↓②大聖院↓③海軍艦政本部地下壕設営隊厨房跡↓④大聖院裏台地↓⑤艦政本部地下壕↓⑥艦政本部地下壕設営飯場跡↓⑦井上正夫の碑↓⑧海軍省人事局功績調査部跡(日吉台小学校)↓日吉駅

昨秋、「ピースロード構想」を歩く企画を立てました。その見学記は大西運営委員の文にある通りです。次の朝日新聞の記事によりますと、大聖院の裏山が公園として整備される計画があるそうです。一帯が保存されれば地下に眠る艦政本部の地下壕もそっとながらえることができるかもしれません。

写真 田 義所 尾崎

29 第37巻 13版 1999年(平成11年)12月15日 水曜日

大聖院の森

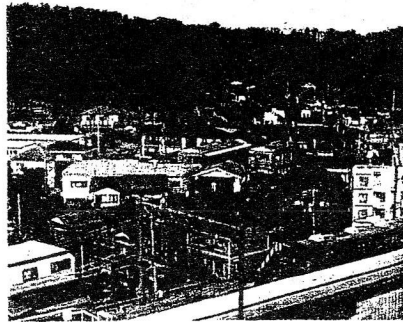
横浜市港北区

かながわ マリオン

「かながわマリオン」への案内掲載は無料です。右記支局内マリオン係へ、掲載希望の3週間前までに郵送かファクスで資料をお寄せください。依頼が多いため載らないことがあります。不掲載の連絡、資料の返却はしません。

〒231-8504
横浜市中区日本大通15
朝日新聞横浜支局
TEL 045-681-9101
ファクス 662-9755

地域と暮らしの情報ページ



公園にして保護する計画が進む森。手前を走るのは東急東横線＝横浜市港北区で

21世紀に残したい わが街自慢

ナラ、カシ、ケヤキ、カエデが茂る。竹林が風に揺れ、笹の葉がざわめく音がする。近くの家からは、たき火の煙が上がる。

東急東横線日吉駅にほど近い横浜市港北区箕輪地区。大聖院の裏手に小高い山が広がる。開発が進む駅周辺に残る貴重な自然だ。線路の反対側に林立する高層ビルやマンションとは対照的な光景だ。

山の名前はないが、「大聖院の森」と呼ぶ人もいる。少し登ると、町並みが一望できる。大聖院住職の多田孝文さん(左)は「場所にもよるが、好天の時にはベイブリッジや富士山も見えますよ」。

市緑政局がこの一帯で、「日吉の丘公園(仮称)」の整備を進めている。公園にして守っていくと、地主ら数人が市に協力を求めた。

「線路向こうにあった山も開発され、五年前にすっかりなくなりました。バブル景気のころには、不動産屋が

こちらの山も買い取りに来た。どうにか緑を残さなくては、と思った」。地主の一人の多田さんが振り返る。

公園として整備する面積は約二・七ヘクタール。今年度から三年計画で取り組む。地主は当面、土地を無償で市に貸す代わりに税を免除してもらう。

今後、地域住民と話し合いながら計画を詰めていくことになる。「できるだけ今のままの姿で、将来に残していきたい」。多田さんたちは、こう願っている。

(根本 理香)

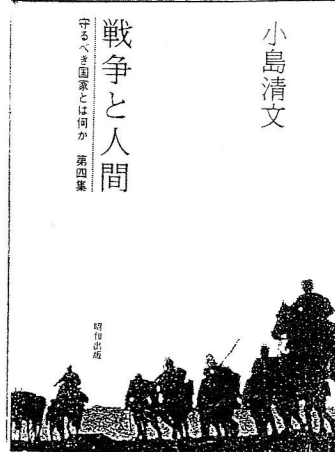
◆ ◆ ◆
東急東横線日吉駅下車、徒歩七分。

推薦の言葉

横浜市港北区・山口愛さん
小
学生
のころ、友達と森の中に入っ
ては、タケノコをとったり、竹に自
分たちの名前を書いたり、穴を掘
って手紙を埋めたりして、隠れ家
みたいでした。高校生になった今
も、そのころの友達とお菓子を持
って遊びに行く大切な場所です。

緑の山から富士や町並み一望

本の紹介



これまでに、日吉台地下壕保存の会と関わりのあった方々が、相次いで本を出版されています。簡単にご紹介しますので、興味をお持ちの方、是非お読みになってください。(順不動)

(1) 戦争遺跡は語る 戦争遺跡保存全国ネットワーク編 (かもがわブックレット、128) かもがわ出版 1999,8 63p. 600円

全国各地で行なわれている戦争遺跡保存の実現に向けて、その活動状況および保存の意義や展望についての最新情報がわかりやすく書かれています。

(2) 平和のための戦争論～戦争の時代をどう教えるか～ 渡辺賢二著 (法政二高教論) 教育史料出版会 1999,2 253p. 1800円 (1600円に)

「戦争論」は未来を希望ある平和な社会とする展望をもつものでなければならぬ。小林よしのりの「戦争にいきますか? それとも日本人やめますか?」ではなく、私は「戦争に行きますか? それとも平和を創造しますか?」と子どもたちに問いかけたい。(「はじめに」より)(帯より)

(3) 戦争と人間 小島清文著 (守るべき国家とは何か、第4集 戦争体験を掘り起こす会編) 昭和出版 1999,5 106p. 800円

日本人はかつての戦争から何を学んだのだろうか。何を学ばなくてはならなかったのだろうか。

戦艦「大和」に暗号士として乗組みレイテ沖海戦に参加。壊滅後、ルソン島のジャングルをさまよった著者が地獄の戦場から学んだ一つの答・・・国家とは何か

(4) 創世 第28号 1999 慶應義塾大学経済学部白井厚研究会OBG会 1000円

平和のための戦争展、「大学とアジア太平洋戦争」の反響、慶大の戦没者名簿、記念碑などについて、戦争体験者、ゼミ卒業生など執筆。写真満載。

(5) 共同研究・太平洋戦争と慶應義塾 慶應義塾大学経済学部白井ゼミナール著 白井厚監修 慶應義塾大学出版会 1999,10 206p. 4000円
ゼミの8年間の研究成果。1600のアンケート回答により2000余名の戦没者名簿も収録。若い読者のための解説つき。

連載

日吉台地下壕

当時の関係者の

思い出話 30

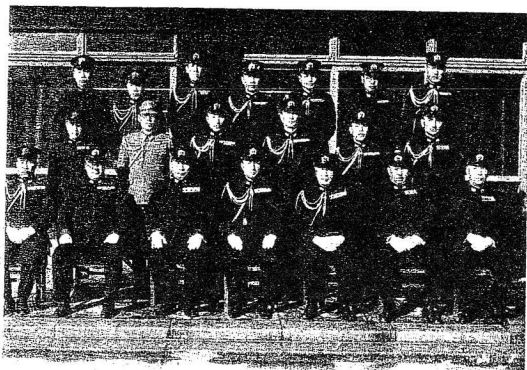
「敵側情報より見たる・・・」

増井 潔氏の話

(ききて…寺田貞治)

情報の基礎は戦前の「ジェーン年鑑」などであった。各国の軍備が克明に調べてあった。

米国は正確に情報を発表していた。例えば、アメリカで空母の建造計画がなされ、やがてその進水があったとする。短波放送を受信していると、確実に発表するので、起工から進水までの時間がよく分った。戦争末期には潜水艦は三カ月で出来ていた。米国は沈没した艦船も正直に発表していた。



昭和20年1月、日吉司令部作戦室前の聯合艦隊幕僚。左から参謀副長の高田少将、神立金作軍医長、司令長官豊田大将、侍従武官、参謀長草鹿中将。後列の左から3人が著者。

我々の情報収集は「敵側情報より見たる・・・」ということですのでやった。

日本の大本営は、作戦部隊からの報告がくると、そのまま発表していた。軍令部第一部第一課(作戦課)は、第一線部隊からの報告を信用して、第三部(情報部)の意見を余り聞かなかった。

高松宮殿下も第一部の軍令部員であった。よく日吉の第三部にもみえた。きさくな方で、「米国に新型の航空機が現れたというが、どんな飛行機か」と質問され、資料をあげたことがあった。

捕虜の証言から非常に確度の高い情報が得られた。大船に捕虜の仮収容所(捕虜は陸軍が収容することになっていた)が、海軍が捕えた捕虜は一時的に海軍が収容していた)があり、時々行って聞取った。海軍少将と下士官、兵が一〇名ほどいた。海軍部隊が撃ち落とした飛行機の乗組員や船で助けた米兵などの捕虜を収容していた。

実松さんと二人で行く時は、日吉のロッカーに入れてある背広を着て行った。海軍では士官以上は頭髪を伸ばしていた。第三部は背広の方が都合のよ

いことがある。特に捕虜に会う時は刺激を与えないように背広に着替えていった。

米兵は捕虜になった時の訓練をうけており、国際法の禁止事項や情報提供はする必要がないことなど教えられていて、聞き出すことは難しい。

その点、日本軍人は全く教えられていないので、捕虜になるとどうにでもなれと何でも喋ってしまう。一方、捕虜を簡単に殺してしまい、戦後、戦犯になった人も多かった。

実松さんは、実に巧く捕虜から聞き出していた。氏の所へは、木更津や横須賀などの航空隊から情報をよく聞きにきていたが、キャラメルやパンなどのお土産を貯めておき、捕虜と一緒に食べながら、気持をときほぐし、かまをかけて聞き出していた。私はノートのとり役であった。

戦争末期、米国の情報より分析・考察して、米国の戦後対策を推理した「敵側情報より見たる米国の戦後対策」という本を第三部で作り、大問題となった。当時、軍令総長と海軍大臣を兼任していた島田繁太郎大將に第三部長と第五課長が呼出され、非常に怒られ「すべて回収し、焼却すること」と命令された。高松宮に渡った一冊は回収することができなかった。「この本は面白いからとっておく」と言われたそうである。

この本はアメリカの情報だから推理を働かせて作ったもので、米国は勝った後どんなことを考えているかを示している。戦後のアメリカの復興計画・経済・膨大な軍勢力などをどうするかとか、米国はいろいろな人種で構成されており、そこに米国の弱さがあるのだということも書かれていた。

労働・黒人問題に詳しい人が軍令部にいた。戦後、一橋大学教授になった都留重人氏である。頭もよく家柄もよかったが、思想的に左がかったと言われている。ハーバード大学の教授の時、戦争が始まり、実松氏と一緒に帰国し、軍令部に迎えられた。私も都留氏の話をよく聞いた。

「コレクタ・バーディング」の意味をきいたところ「団体交渉」と教えられた。「敵側情報より・・・」の一部は都留氏の見識が反映している。

戦後、米国では「日本海軍の中央部は、戦争の推移を冷静に受けとめ、深く考えていた」との見方をしたようである。豊田副武元連合艦隊司令長官の弁護士は、高松宮が持っていた一冊が何らかのルートで米国に知られたのではないかと推理している。

戦後、私は、マッカーサーに日に一回呼出された。第一

生命ビルのマッカーサー司令部からラインハート少佐命で呼出され、B級戦犯で巣鴨に入れられた実松氏のことを聞かれた。最初検事側に呼ばれ「大船の捕虜収容所で捕虜を殴ったりしなかったか」と問われ「実松氏は捕虜に食物を与え、互に笑顔で話し合っていた」と述べた。

終戦直後、大船の捕虜収容所を解散しなければならぬ



昭和19年11月、日吉司令部の作戦室で執務中の司令長官豊田副武大將。左端にいるのが参謀長草鹿龍之介中將、右端が航空参謀瀧田英津雄中佐、長官の後ろが副官桑原春雄中佐。

と思い、急行したが、もう捕虜はいなかった。床に「Good Luck」と書かれていた。

米国に帰った捕虜が、兵が敬礼していた背広のおっさんをボスと思ったことが、実松氏の巣鴨入りにつながったいきさつのである。

横浜の県庁前の裁判所にも呼出され、豊田副武元司令長官の弁護側の証人として出廷した。「敵側より見たる・・・」は豊田長官の時に書かれているので、「豊田長官が命令して書かした」と言えば、絞首刑は免れるからと言うので証言させられた。単に「書きました」とだけ言った。豊田元長官は絞首刑を免れた。(生協ニュース教職員版第四二号より抜粋転載)

写真は「連合艦隊作戦室から見た太平洋戦争」中島親孝著 光人社より

運営委員会員会云云報告

(第4回)

九月二十九日一八時半～(一六時半)会報五一号送作業)

慶應高校物理教室

報告

*戦争遺跡保存全国ネットワーク京都大会に6名参加(八月四日)六日会報五一号に報告掲載

*平和のための戦争展かながわに展示参加(八月二三日)二九日神奈川県民ホール)

*平和のための戦争展川崎・横浜実行委員会(九月二二日 第7回の反省、次回の会場等)

*見学会

九月二五日品川区教組他二一名

九月二六日川崎市民グループ、

ピースニュース、日吉地区青少年指導員他一六名。

*日吉台地下壕関係の文献リストを作成。

*保存の会資料等を整理(九月五日ともだち書店)

(第5回)

十一月二十四日一八時～

慶應高校物理教室

報告

*平和のための戦争展横浜・川崎実行委員会(十一月一六日、二〇〇一年には全国ネットワーク大会を神奈川・川崎Vで)

*見学会

十月四日 日吉台西中、先生二名、三年生九名

十月一六日 大聖院・艦政本部側 慶應大学生協一八名

議事

*箕輪の丘公園工事と艦政本部地下壕について(進行状況を調べる)

*会報発行は一月、三月下旬(第6回)

二月一五日一八時～

慶應高校物理教室

報告

*平和のための戦争展横浜・川崎第8回の会場を慶應大学

日吉キャンパスに決定(藤山記念館)

*二〇〇一年の全国ネットワーク大会を川崎市平和館で行い、市の主催を要請する件で川崎市民局長、文化財課長と

会見(十一月二十九日、須田輪太郎氏他三名)

*見学会

十一月二七日 法政二中教員生活クラブ、保存の会会員他

二九名

二月四日 慶應大学日吉丸の会九名(大聖院側)

議事

*ピースロード構想の充実に努める。

*会報 一月二五日五二号発行予定 送作業後、運営委員会(慶應高校物理教室)

見学会云云の

お知らせ

日吉台地下壕見学会

二月二六日(土)の予定です。

お問い合わせは 喜田まで

〇四五―五六二―〇四四三

お願い

★一九九九年度会費の未納の方は白鶴まで送りくださるようお願いします。

★会報の原稿を募集します。

会員に知って欲しいこと、調査等で分かったことなど何でも結構です。お送りください。
